

# 西新井大師総持寺 本堂(耐震改修)

NISHIARAI DAISHI-SOUJJI-TEMPLE HONDO

No. 10-012-2010作成  
改修・保存  
その他

発注者	宗教法人 総持寺	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	清水建設株式会社一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	清水建設株式会社	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

## 内外観を変えないリフォーム

西新井大師総持寺は、天長3年(826年)弘法大師空海によって開創されたと伝えられる関東で最も古い真言宗豊山派の寺院である。創建以来、千年余りを経過する現在では、檀信徒はもとより、地域の人々の心の拠り所として、常に賑わい親しまれている足立区のシンボリックな存在となっている。

寺院の中心施設となる本堂は、創建以来、幾度かの火災に遭遇し、その都度、再建を繰り返してきた。1971年(昭和46年)に再建された鉄筋コンクリート造の現本堂は、多くの浄財が集められ、檀信徒の思いのこもった本堂として建立された。

### 建物の特徴および歴史的 위치付け

本堂の設計者、大関徹は、日本建築の近代化に努めた吉田五十八の弟子として知られている。

戦後、都市の不燃化により、それまでの木造本堂からRC本堂が主流となってきたが、その代表的なものである。

本堂の軸部は、通し柱に差肘木を採用し、RC造に相応しい合理的な表現とし、内部空間も内外陣を隔てる柱や間仕切りを撤去して一室の空間とすることで、どこからでも御本尊を拝めるようにしている。規模も、これまでの木造本堂に比べ、倍ほどにも大きくすることが可能となったが、その大屋根は鍔葺きのスタイルとし、軽快な表現としている。

### 改修方針

建物の外観、内観を保守しながら今後50年、100年残していくために計画された今回の改修工事の方針は、耐震性能の向上に加え、正月の混雑時対応として、新に待合スペースを設け、お札所を増築して動線を改善する、ということの2点である。

建物平面は約30m角のほぼ正方形であり、延床面積約2,300㎡、高さ27m。2階の前面が吹放しの庇となっている。主に倉庫等に使用されている1階は階高が低く抑えられているのに対し、2階本堂部分は階高が高く壁の少ない建物である。

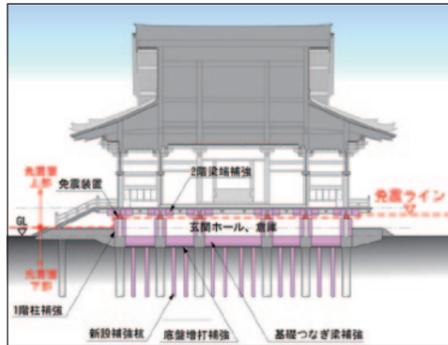
本堂改修の目標は、「大地震直後にも、地域の避難場所として建物の継続的な使用を可能とする」こと、「内部の御本尊や荘厳仏具などを転落被害から守り、屋根瓦の脱落をも防止する」ことと設定され、また、この工事を行うにあたって「寺院行事を妨げない」こと、すなわち、工期は節分明けから七五三までとし正月を挟まない計画とする、境内には常時参拝客を迎え入れるため、工事エリアを最小限とするといった条件が付加され、これを満たす構法として、中間階免震レトロフィットが採用された。



外観



内観



免震改修概要

### 建物データ

所在地	東京都足立区
竣工年	2008年
敷地面積	26,475㎡
延床面積	2,330㎡
構造	RC造
階数	地上2階

### 耐震性の向上

#### 〈耐震改修の目標値〉

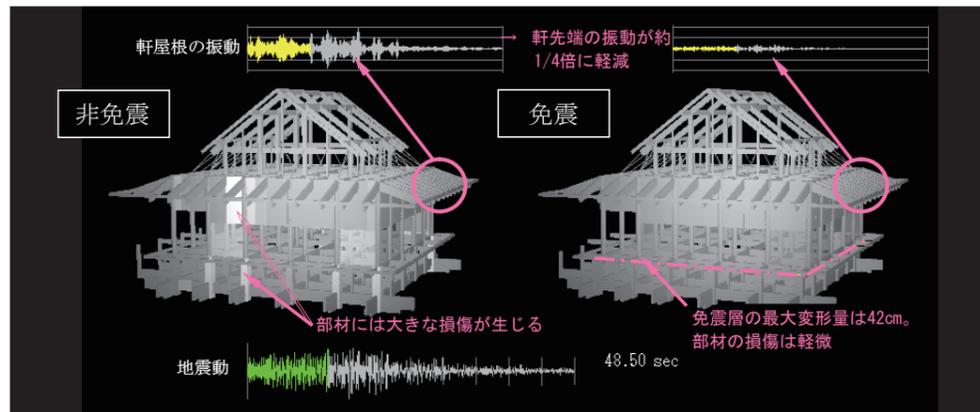
耐震改修の目的は、大地震直後の継続使用と御本尊の転倒防止、瓦の脱落防止である。このための目標値を、震度7相当の大地震時の応答加速度を200cm/s<sup>2</sup>程度、周期約3.5秒、大屋根の軒応答加速度は改修前に比べ約1/4倍に低減する設定とし、免震構法を採用した。

#### 〈地盤の液状化対策〉

敷地周辺の地盤は液状化の可能性があるため、免震化と同時に、鋼管杭の増設により建物全体の耐震性を向上させた。

#### 〈寺院行事に配慮した計画〉

参拝者の動線を考慮し、工事エリアの低減と工期短縮のために、中間階免震レトロフィットを採用した。



### 機能性の向上

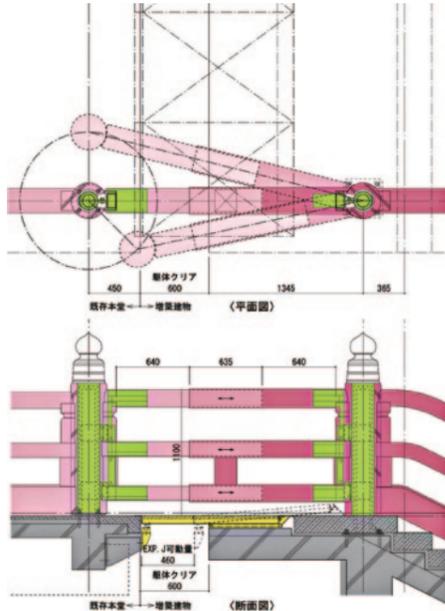
#### 〈正月時の動線の改善〉

免震層となる1階南北面の耐震壁を撤去することが可能となり、1階正面、背面側の基壇を切り下げ、本堂への玄関機能を1階にも設ける計画とした。

また、改修工事後に完成する本堂裏側の増築棟と一体化した使用環境を整備し、正月の混雑時のスムーズな動線計画を実現して、建物の使い勝手を大幅に改善した。

#### 〈バリアフリー〉

増築建物内に、エレベーターを設置することで、車椅子利用者・高齢者等の2階本堂への参拝動線がスムーズとなった。



社寺建築特有の意匠に配慮したエキスパンション部のディテール

### 設計担当者

建築：福本敦子／構造：貞広修、木村誠、鈴木泰介／設備：大内政治／電気：中澤公彦

### 主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性(高強度コンクリート、免震装置と瓦屋根の更新時期を合わせる)
- Q2. 3. 対応性・更新性(免震構造による用途変更への配慮)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮(歴史性の継承)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮(動線の改善、高齢者対応)
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減(既存躯体の継続使用)